

# まちほけ

ぷらす☆ 2009/SPRING

元気だった赤ちゃんが前触れなく亡くなってしまふこの病気はこれは古くからあったもので、育児上の不手際や虐待が原因ではありません。

研究が進んでいるにも関わらず世界的にも原因はいまだ特定に至ってません。

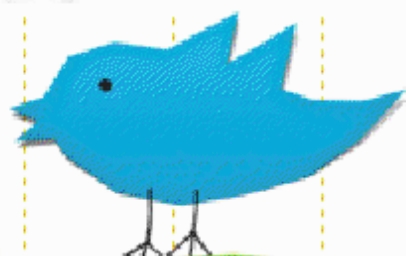
ただ発症時に共通していることがあります。原因がわからなくても、危険因子を避けることで発症をおさえることができます。

日本での発症頻度はおよそ出生4,000人に1人と推定され、生後2ヵ月から6ヵ月に多いとされています。

発症は年々減少傾向にありますが、平成19年においては全国で158人の赤ちゃんがこの病気で亡くなっています。SIDSの原因はわかっていませんが、育児環境のなかにSIDSの発症率を高める3つの因子（「両親の喫煙」「人工栄養」「うつぶせ寝」）があることが、これまでの研究で明らかになってきています。



減少しているのは、キャンペーンなどで「危険因子を避けることで発症を抑えられる可能性が高いこと」が周知されてきたためと思われる。



南青山病後児保育室  
まちかど保健室みなと看護部

まちほけでは、1歳未満の子どもの睡眠中はSIDSチェック表にもとづいて、呼吸チェックを実施しています。

うつぶせ寝を避けるだけでなく、呼吸器系の不具合ではないか？という研究結果があるため、熱があっても、暖めすぎないように薄着にして、見守っています。